

平成 26 年度水産研究成果情報

課題名 : DNA マーカーを用いたクルマエビ種苗放流効果の検討

[背景・ねらい]

クルマエビは本県有明海の重要魚種の一つであるが、近年、漁獲量が低迷している。有明沿岸四県では、漁獲の底上げ並びに資源の回復を目指し、平成 15 年からクルマエビの共同放流を実施している。このような中、より効果的な種苗放流を実施するため、標識精度の高い DNA 親子判定技術を用いて、現在の海域環境に即した放流技術(サイズ、時期及び手法)を開発する。

[成果]

放流サイズ(10mm 及び 30mm)と放流時期、放流時間帯(昼、夜)の放流効果を比較するため、佐賀市川副町沖合等においてクルマエビ種苗を放流し(表1)、佐賀県内における漁獲混入率を求めた。

その結果、6 月上旬に放流された 10 mmと 30 mmの種苗の漁獲混入率を比較すると、10 mm種苗の混入率は、30 mm種苗より 4 倍高くなった。したがって、放流サイズは、10mm サイズでも一定の放流効果があることが確認された(図 1)。

表 1 佐賀県海域におけるクルマエビの放流状況

放流サイズ	放流時期		放流時間帯	放流数(万尾)	備考
	放流月	旬			
10mm	5月	中	夜	152	
	5月	下	夜	202	
	6月	上	昼	429	
	7月	上	夜	417	
30mm	6月	上	夜	146	有明四県共同放流事業

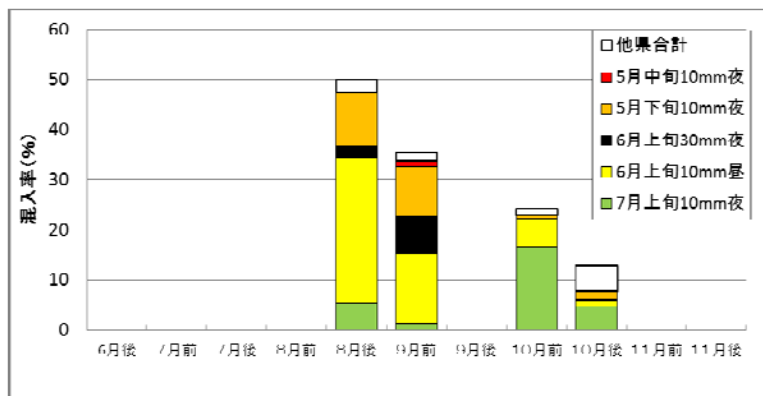


図 1 佐賀県内における放流種苗混入率

[今後の対応]

引き続き、四県共同放流事業の放流効果を把握する。

[その他]

研究期間: 平成 21 年～

研究担当者: 資源研究担当 神崎 博幸